

家族の象徴

長岡市立栖吉中学校三年

吉井

愛璃

私の家は、夕食は家族みんなが食べるのが  
 ままりです。私が塾に行っている時も、家族  
 は私の帰りを待っていてくれます。とにかく、家  
 族七人、祖父・祖母・父・母・私たち子供三  
 人がそろって食べるのです。七人がテーブルに  
 について、それぞれが「いたただきます」とし  
 っかり声に出してから食べ始めます。夕食は

やはりごはんとみそ汁が定番です。家族みんな  
 が顔をそろえて、その日一日のことをあれこれ  
 水話し合うこの時間が私は大好きです。私も、  
 自分が大人になったらこんなふうには子供の帰  
 りを待ってやる親になりたいです。  
 楽しい夕食の時間。そんな時、食卓の真ん  
 中にあるのはおいしいごはんです。作る人が  
 母なら、おいしいからあげとほかほかごはん、  
 祖母なら、おいなりさん。それぞれ油あげが裏  
 返してあるちよつと白っぽいおいなりさんが

得意料理です。

私は毎日の出来事を食事の時に話します。学校でうまくいかなかったり、友達関係で悩んだことなどを話します。もちろん楽しかったことや嬉しかったことも話します。特に、私が落ちこんでいる時には、母や父が、「ほら、ごはん食べて元気出して」と声をかけたり、ごはんを食べます。っらいことがあって泣きながら食卓につくような時でも、ごはんを鼻ですすりながら食べていると、食べ終わっている頃

には不思議と涙が止まっています。だからごはんには、不思議なパワーがあると思っています。

私の家は、パン食よりもお米を多く食べます。特に祖母の三角ちまきは最高です。笹の葉を三角に折りもち米を詰め、ヒモで素速く上手にしばります。一度に百個も作ります。祖母はそれを知り合いの人に配ります。私は昔、祖母の作る三角ちまきが実はあまり好きではありませんでした。でも最近、お米の味

がわかるようになって三角ちまきが大好きに  
なりました。お米の味と家族との楽しい時間  
が合わせった時、私の心は落ち着きます。  
ではそのように心を落ち着かせるお米の不  
思議なパワーはどうして生まれてくるのでし  
ょう。実は私の家の米は親せきの人からもら  
ってまわっているものです。親せきのおじさんが  
近くの田んぼで、種もみを作り、苗を育てて  
います。実際田植えをしている所は見たこと  
がありませんが、おじさんが苦労して作って  
くれているのは知っています。そのおじさん  
が秋になるとトラックで私の家にお米を届け  
てくれます。おじさんがトラックから米を降  
ろす時、腰を痛そうにして降ろします。もち  
ろん私もその手助けをします。一袋何十キロ  
もある米を何回も降ろしているおじさんは本  
当にっらそうに見えます。だから苦労して作  
ったおじさんのお米を、我が家では大切に  
いただいています。そうやって苦労して私の家  
に来たお米が、毎日の食事に使っているのです。

ですから、お米の不思議なパワーには色々な人の苦勞や思いが込められていてのだと思います。おいしいごはんを作ってくれる母や祖母、私の話をいつも聞いてくれる父、一緒にバカ話をし合っている妹たち、そんな家族の真ん中にあるのが、ごはんです。だからこそ、私はごはんが大好きです。ごはんを食べると、親せきのおじさんの苦勞や、家族との温かい時間を知らずに思い出させてくれるから温かい気持ちになるのです。

私はこれから「ごはん」を大切に暮らしていきたいと思います。いつも家族の真ん中にあるごはんをこれからも家族の笑顔で囲みたいのです。